

情報収集衛星に係る経費の平成30年度補正予算案及び 平成31年度政府予算案

平成31年1月
内閣官房

1. 平成30年度補正予算案の概要

安全保障及び危機管理に必要な情報収集体制を強化するため緊急に対応すべきものとして、以下の施策を行う。

- (1) 情報収集衛星光学7号機、光学8号機、レーダ7号機、レーダ8号機及び第七期地上システムの開発並びに重要技術研究開発（光学系の製造・試験設備の整備）に必要な部品・材料等の早期調達を行い、製作・試験を可能な限り早期に実施することで、開発工程における重要な品質の問題等を早期に把握・解決し、工程の遅延リスクを低減する。
- (2) 打上げ用ロケット（データ中継衛星）の組立・試験工程の前倒しを実施し、ロケットの組立・試験工程の時間を十分に確保することで、ロケット製造体制を強化し、確実なロケットの打上げを行う。

2. 平成31年度政府予算案の概要

今年度に引き続き、ユーザー・ニーズに対応しつつ、合計10機（基幹衛星4機、時間軸多様化衛星4機、データ中継衛星2機）の整備を目標とし、平成31年度については、以下のような方針の下、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図る。

- (1) 光学9号機、時間軸多様化衛星（レーダ）、第八期地上システムの開発に着手する。
- (2) 光学7号機、光学8号機の開発を継続する。
- (3) レーダ7号機、レーダ8号機の開発を継続する。
- (4) 時間軸多様化衛星（光学）の開発を継続する。
- (5) 平成31年度の運用開始に向け、第七期地上システムの開発を継続する。
- (6) 情報収集衛星システムの機能・性能の抜本的向上のため、重要技術の先行研究開発を拡充・強化する。

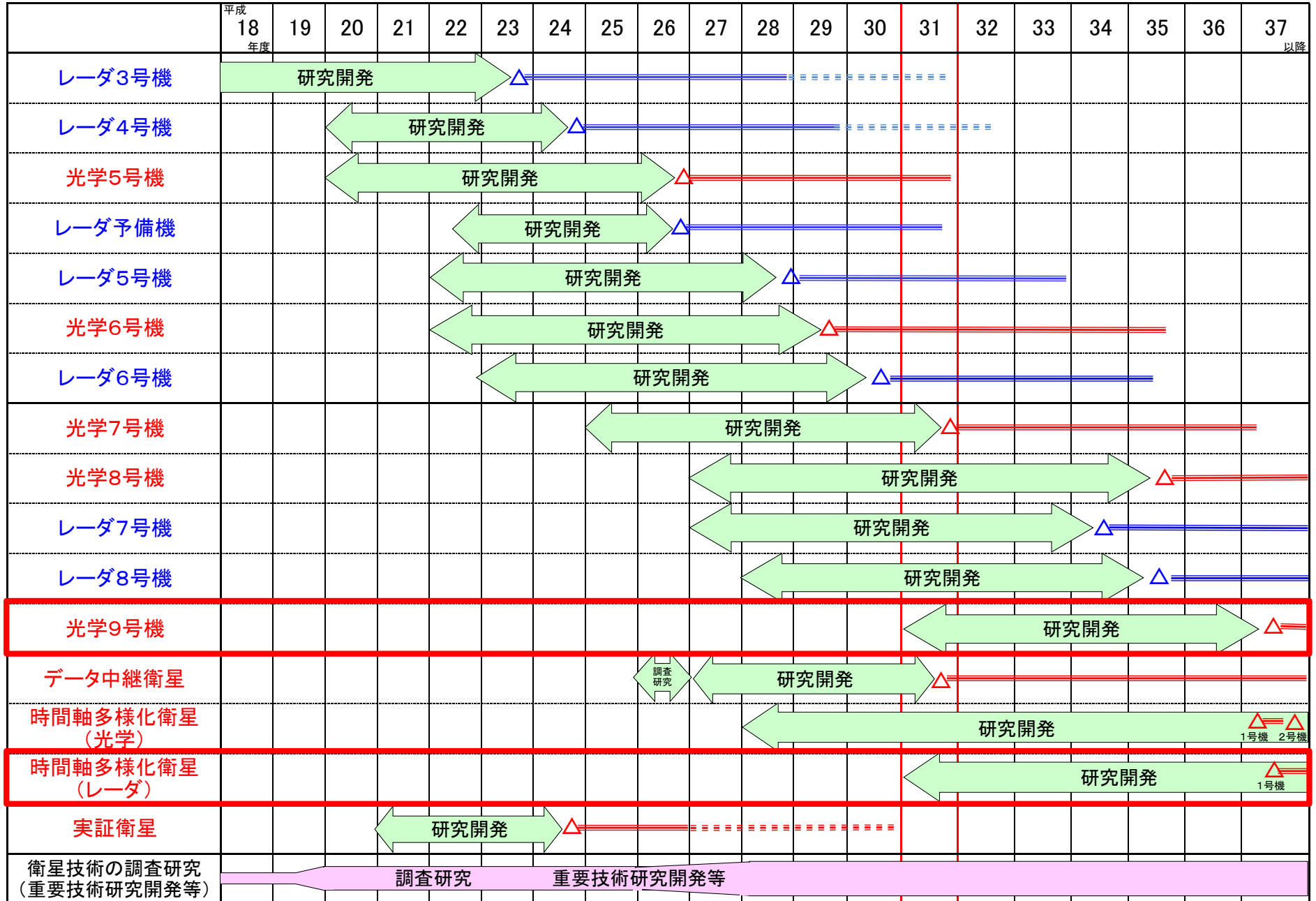
3. 平成30年度補正予算案及び平成31年度政府予算案の内訳

(単位：億円)

経費区分	平成30年度 当初予算額 (A)	平成30年度 補正予算案	平成31年度 政府予算案 (B)	対前年度 比較増減 (B)-(A)
(1) 情報収集衛星の運用等	250	0	230	△20
(2) 光学7号機の開発	49	69	105	57
(3) 光学8号機の開発	26	32	30	4
(4) レーダ7、8号機の開発	95	54	99	3
(5) 光学9号機の開発	0	0	25	25
(6) データ中継衛星の開発	79	5	70	△9
(7) 光学多様化1号機、2号機の開発	3	0	12	9
(8) レーダ多様化1号機の開発	0	0	4	4
(9) 実証衛星の運用	8	0	0	△8
(10) 衛星技術の調査研究等	44	7	46	2
(11) 光学6号機、レーダ5、6号機の開発	66	0	0	△66
合計	620	167	621	1

(注) 四捨五入のため、必ずしも合計が一致するわけではない。

研究・開発及び打上げスケジュール



※平成31年度予算案時点での見通しであり、今後、変更が生じ得る。

※赤枠は新規。